



新しい年に向けて

校長 新井 篤志

2019年度は「平成」から「令和」へと新しい時代に移っていく節目の年となりました。毎年恒例の清水寺で行われる今年の漢字に「令」が選ばれたのはその象徴と言えるでしょう。この1年を振り返ると日本も世界も様々な分野で大きな変化が起き始めているうねりのようなものを感じます。そして、解決しなければならない直面する課題も多く浮き彫りになってきています。

松尾芭蕉の言葉に「不易流行」があります。時代の様子が変わっていくと今までしてきたことが必ずしも適切な対応にならなかつたり、やり方や考え方の発想を変えたりすることが必要な時代になっていると言われ続けています。つまり「流行」にあたる新しいものを「創造」する力が求められています。来年度から小学校では、新しい教育課程がスタートします。学校教育では今まで以上に問題解決的な学習が重視されます。子ども自らが問題を発見し、解決の道筋を立て、実践していく。そしてうまくいかないときは修正をしてまた問題の解決に向かっていく姿勢や態度を育てていきます。

しかし、子どもが主体的に学ぶことは今までも重視されてきたことです。一見「流行」のように見えますが、本来学校教育においては「不易」の部分です。「流行」にとにかく目が行きがちですが、本質のところでは何が大事なのかを見失ってはいけないと思います。会社の社長さん達が会社経営を立て直すときの話に、この「不易流行」から会社の現状をとらえなおし立て直した話が実に多くあります。社会における自分の会社の役目は何なのかと、根幹をしっかり把握していると、「流行」に当たる部分、つまり顧客の求めているものにマッチしてくると言われます。同じように考えると、学校も学校が本来果たす役割を踏まえていくことが、変化し続ける社会に主体的に対応できる子どもたちの育成につながると考えます。

「不易」と「流行」は対立するものではありません。永遠に変わらないものを忘れず、新しいことや変化も同じように取り入れていくこと、裏を返せば、新しいことや変化を取り入れていくことこそが本当は永遠に変わらないものを大事にすることになると考えられるということだと思えます。

新しい年を迎えるにあたって、丸山台小学校でも「不易流行」の言葉から本質を見失わない、そして社会の変化に柔軟に対応していく学校づくり、学校教育に取り組んでいきたいと考えます。

皆様も健康に留意されて、良いお年をお迎えください。

